



議会だより

2016年11月1日発行

第50号



秋だ 祭りだ
ワッショイ! ワッショイ!

■ 定例会	2
■ 委員会報告	6
■ 一般質問	8
■ 町民の声、あとがき	20

平成27年度一般会計決算を認定

(賛成11名 反対2名)

一般会計決算 歳入110億6207万円 歳出108億3325万円

平成27年9月議会は、7日から23日までの17日間の会期で開かれ、町長から、条例、補正予算、決算認定など38議案が提案された。

慎重に審議した結果、広報常任委員の辞任を除き、議員提出議案3件を加えた議案は原案の通り可決、認定・同意となりました。

討 論



反対 青亀議員

芝結束機の問題もある。また生活相談員などの非常勤特別職の問題もあり、反対する。



反対 高塚議員

芝結束機の問題、企業誘致も実績がゼロ、補助金の見直し不足、進学奨励金の一般化や臨時職員の格差もある。よって反対する。



反対 青亀議員

現年返済率が50%を割り込み、新たな滞納が半分以上も発生している。過年度分の返済率は、住宅改修では、わずかに1.2%と言う水準だ。深刻な会計の討論もなしに決算が認定されてはならない。



反対 青亀議員

3月議会一般質問で質問を受け、小林教育長は、「言論の自由、表現の自由はあるけれども、それによって傷つく人もいますと考えていただきたい。」と答えました。こういった事実から同意できない。

一般会計歳入歳出決算

住宅新築資金決算

教育長の任命案件

賛成 新藤議員

成果説明を聞いたところ、計画通りに事業が行われており、賛成する。



賛成 川本議員

監査意見書では、12項目にわたって意見が延べられており、建設的な意見も多くあった。目的に沿って計画的に実施されており、賛成する。



賛成 澤田議員

委員長報告の通り景気の低迷による減収や失業等の状況もある中で、町も徴収基本計画を定め、仕分けをしながら取り組まれて減少してきている。よって賛成する。



賛成 小椋議員

学校教育や社会教育において自分の身を削って頑張っておられる。こういう方が町を支えるべきと考えるので、賛成する。



◆懲罰特別委員会を設置

9月21日に川本議員から提出された手嶋議長に対する「処分要求書」を受け、議会最終日に懲罰特別委員会を設置し、審査付託しました。

これは、全員協議会における議長の発言により

侮辱を受けたとする訴えによるもの。

懲罰特別委員会（6名）

◎前田 智章 ○桑本 始 井木 裕
青亀 壽宏 小椋 正和 新藤 登子

(◎印：委員長 ○印：副委員長)

◆合区の見直しに関する決議（全会一致で可決）

我々琴浦町議会は、この参議院選挙制度の抜本の見直しにあたっては、国と地方が一層連携を強め、地方創生を推進していくためにも、地方の意

見を十分国政に反映できる地方創生にふさわしい仕組みを構築すべきであり、合区を見直して都道府県単位による代表が国政に参加することが可能な選挙制度とされるよう、各方面に要請した。

◆ 人 事 ◆

任期満了に伴い、新たな教育委員会制度のもとで、人事案が提案され同意しました。

【教育長】

・小林 克美氏

（任期 平成28年10月27日から3年間）

【教育委員会委員】

・石前 富久美氏

（任期 平成28年10月27日から4年間）

選挙管理委員選挙も指名推薦にて行い、次の方が当選人となりました。

【選挙管理委員】

・岸本 智子氏（出上）

・坂口 勝康氏（八幡）

・松本 厚志氏（三保）

・山内 和栄氏（浦安）

【選挙管理委員補充員】

・安岡 己雄氏（八橋）

・上田江三子氏（八幡）

・小谷 登氏（逢東）

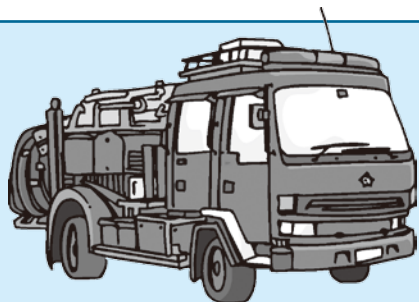
・西中陽出子氏（籠津）

（任期：平成28年10月26日から4年間）

賛否が分かれた議案等の起立採決による審議の結果

	審議結果	議員名											手嶋 正巳							
		賛成	反対	高志	豊秋	賢治	正範	義男	裕史	則明	登子	勝		一郎	正和	壽宏	智章	始	裕	
議案	琴浦町臨時的任用職員の勤務条件等に関する条例の一部改正について	採択	9	4	○	○	○	欠	○	欠	×	○	×	○	○	×	○	○	×	議
	琴浦町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について	採択	9	4	×	○	○	欠	×	欠	○	○	×	○	○	×	○	○	○	議
	平成28年度琴浦町一般会計補正予算（第4号）	採択	12	1	○	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○	議
	平成27年度琴浦町一般会計歳入歳出決算認定について	採択	11	2	○	○	○	欠	○	欠	○	○	×	○	○	×	○	○	○	議
	平成27年度琴浦町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について	採択	12	1	○	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○	議
	教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて	採択	12	1	○	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○	議
その他	語堂正範議員の広報常任委員会委員の辞任について	不許可	3	10	○	×	×	欠	○	欠	×	×	×	×	×	×	×	○	議	

この表に掲載していない議案は、全会一致で可決しました。 ○=賛成 ×=反対 欠=欠席 議=議長
請願・陳情の件名、その他詳細につきましては5ページをご覧ください。



7月25日に臨時議会が開かれ戸籍が存在しなかった件に関する賠償や一般会計補正予算、消防ポンプ自動車を2354万円で契約すること等を可決した。

補正予算の中に、旧森藤工業団地用を転売するため地価鑑定費用に関する予算が計上されていたが、議会の意見を受け、町長がこれを撤回。削除したものが再提案され、可決した。

臨時議会

私たちの税金は どう使われたのか

― 27年度決算 ―

問 青亀議員

財産管理として芝の管理機の扱いはどうなっているのか。

答 町長

農林水産課の財産管理の扱いとなる。

問 青亀議員

土木施設愛護ボランティアが進んでいない理由は、何が考えられるか。

答 課長

地区内は支払い対象外であり、集落外のみ支払い対象のためと思われる。

問 川本議員

工事請負費の費目で不用額が生じている。達成率は、いくらになるのか。

答 課長

予算に対する達成率は、89・

3%になる。

問 山田議員

住宅の耐震診断は、どのようなPRを行ってきたのか。

答 課長

町報をはじめ、ホームページ上でも行った。

問 桑本 始議員

他県で落石事故があったが、町としては、調査をしているのか。

答 課長

対象となる箇所については、調査済みである。

問 井木議員

船上山橋の耐震調査はどうなっているか。

答 課長

順次すすめている。

問 桑本 始議員

コンビニ収納の手数料は、一件あたりいくらになるのか。

答 室長

コンビニに支払う手数料は97円支払うこととしている。

問 川本議員

平成26年と比較して取り扱い件数が減少した理由は、何が考えられるか。

答 課長

一部金融機関の請求漏れがあったことによるため。

― その他の議案 ―

特別職の職員で常勤のもの、給与及び旅費に関する条例の一部改正について（町長の10月分の報酬10%カット）

問 大平議員

戸籍の記載漏れの件だが、他の自治体では30%の例もあ

る。誰が一ヶ月10%の報酬減が妥当と判断したのか。

答 町長

町長である私が判断した。

問 高塚議員

報酬カットの金額は何を基準にしたのか。10%と言えば、どの程度の金額になるのか。

答 町長

私が判断した。金額は8万円になる。

問 青亀議員

今回の原因とその再発防止をどう考えているのか。

答 町長

原因は、はつきりしないが、受け付け簿や専用ボックスをつくり、書類を回覧するような対策をとった。

陳 情

件 名	提出者	要 旨	委員会 付 託	委員会 の意見	本会議 の結果
保育士の処遇改善並びに職員配置基準の引き上げの緊急対応と財源確保を求める陳情書	鳥取の保育を考 える会 会長 石井由加利	「すべての子ども・子育て家庭を対象に、幼児教育、保育、地域の子ども・子育て支援の質・量の拡充を図る」ため、国としての保育士の処遇改善と配置基準の引き上げを早急に行い、そのために必要な財源を確保することを求める。	教民	願意は妥当 と認める (採択多数)	採 択 《全会一致》
陳情書〔少人数学級の推進と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2017年度政府予算に係る意見書採択の要請について〕	鳥取県教職員組合 中部支部長 筏津 孝行	1. 少人数学級を推進すること。具体的学級規模は、OECD 諸国並みのゆたかな教育環境を整備するため、30人以下学級とすること。 2. 教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元すること。	教民	願意は妥当 と認める (全会一致)	採 択 《全会一致》

※採択された意見書は、国の関係機関へ送付しました。

議会運営委員会

先進地視察の報告 (7月19日~21日)

長野県飯綱町(いづなまち)議会



議会改革が認められ、平成27年度全国町村議会特別表彰を受賞。

議会基本条例の制定。住民の声を行政へ反映させるための政策サポーター制度を創設。議会だよりのモニターを、主に議員のいない集落から選任し、町民からの多様な意見要望等を把握している。

議員定数は14名で、男性と女性が同数になっている。平成27年度全国町村議会特別表彰を受賞。

議会からの政策提言、町政の監視として議会基本条例に基づいて議員の自由な討議を保障し、町政の監視、評価などを行っている。

神奈川県大磯町(おおいそまち)議会



視察を終えて……

両議会とも、行政の監視だけではなく、多様な住民の意見を議会活動に取り入れて政策提言を行うなど、参考とすべきところは多い。

また、信頼される議会をめざして、議員間の自由な討議とそれを支える議員力の向上のための研鑽を重ねている。議員の自覚を促すことが重要だと考える。その中で、飯綱町の議長は7年目、大磯町は現議長をはじめ、前議長、元議長の3代にわたり議会改革を推進しており、議長の強いリーダーシップのもと一定期間の取組みが必要だと感じた。

委員会の活動



総務常任委員会

9月20日に委員会を開き、各課から説明を受け、委員が質疑を行った。

分割審査の結果を、各委員長から報告を受けた後、一般会計決算、各財産区特別会計決算について審議した。

一般会計決算は賛成多数、各財産区特別会計は全員一致で認定することが適当と決した。

委員長 桑本 賢治

新婚家庭支援

Q 新婚家庭支援は、アパートだけでなく、親と同居にも支援するなど精査が必要では。

A 所得制限も含め、この事業の趣旨に添ったものと考えている。

地域づくり

Q 地域づくり団体への推進策とはどのようなものか。

A 「琴浦まちづくりネットワーク」の持つ各種団体へのネットワークを活かして町全体の活性化、元気作り、これらを推進するもの。

道の駅「琴の浦」

Q 道の駅「琴の浦」登録後に旧道（9号線）に降りて来てもらう手立ては。

A 道の駅「琴の浦」を情報拠点とし、9号沿線の店舗を利用してもらう計画。

Q 新たに設置する観光交流総合窓口にWiFiを設置しては。

A 設置予定である。

教育民生常任委員会

9月15日に委員会を開催し、付託された所管の一般会計と、4件の特別会計決算、陳情2件（5ページに記載）を審査した。

所管の一般会計決算は、賛成多数で認定、国保・介護・後期高齢者医療特別会計決算は、全会一致で認定。住宅新築資金特別会計決算は、抜本的対策を講じる意見を付して全会一致で認定した。

委員長 小椋 正和



進学奨励金

Q 大学・専修学校の進学奨励金はそのまま続けるのか。

A 進学率の格差が残っている。

また、文部科学省の調査で、家庭の経済状況が進学率に影響している結果もあり、継続が必要。

医師同乗システム

Q 今後の救急医療についてはどうか。

A 現在の医師同乗システムは、赤碓診療所の診療時間で、夜間や休日に行っていない。ドクターヘリもあり検討が必要。

付帯意見

住宅新築資金等貸付事業特別会計決算に係る付帯意見の要旨。

債権回収の努力は評価するが、債務者の高齢化や複雑化など、更なる回収の困難が予想されることから、早急に抜本的対策を講じること。

農林建設常任委員会

9月16日に委員会を開き、分割審査を付託されていた一般会計の「農林水産費」「土木費」決算と「農業集落排水」「下水道」「船上山発電所管理」の特別会計決算及び「水道事業」決算を審議した。

審査の結果は、4件の特別会計及び水道事業会計決算は全委員一致で、一般会計決算は賛成多数でいずれも決算を認定することになり、本会議にその旨報告した。なお、努力目標とされている“議員間討議”に一定の時間を取り、一般会計に関連して次の3点の口頭による意見を付すことにした。

- ①主要事業課である農林水産課長を副町長が半年間兼務したが、今後このようなことの無いよう希望する。
- ②オの木堤からの土砂流出による環境汚染が引き起こされ、対策に翻弄されたが、今後このようなことが起こらないよう緊張感を持った行政執行が望まれる。
- ③芝の結束機が発注され納入されたが、現場の使用に耐えられず問題である。合理的な全体計画の下に事業展開が望まれる。

委員長 青亀 壽宏

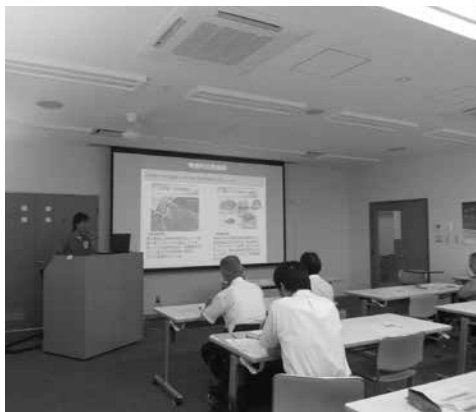
～野田集落と意見交換～

今後懸念される中山間地限界集落の問題を探るため、上郷地区の野田集落に出かけ、地域の住民の方と率直な意見交換を行った。

集落の抱える問題を出していただき、他の地域の経験も紹介し、行政に対する要望も聞き取った。オブザーバーとして農林水産課も参加し、行政も地域の声に耳を傾けることができ、有意義な取り組みだったと地元の方にも喜んでいただいた。



野田集落の皆さんとの意見交換会



6次産業化について説明を受ける

7月12日、鳥取県市場開拓局長のみやこ推進課係長の河上一雄氏を講師に、「6次産業化についての施策と今後の展開について」の講演会を開催した。

県として6次産業化と農工商連携の考え方やその推進に向けた県の事業体系の見直し、段階的支援などが紹介された。また、琴浦町の事例で、「(株)アグリネット琴浦」「漁師一家」、2社の取り組み概要も紹介された。

これを受け、委員会としては、今後これらの事業者と意見交換を行い、6次産業化に向けてどのような支援が必要なのか研究していく事とした。

委員長 新藤 登子

企業誘致推進特別委員会

6月定例会で議決した地方創生推進交付金事業の内、企業立地支援事業補助金（赤碕新港ギンザケ養殖）が特定企業に対する補助との理由で、国に認められなかった。

ギンザケ養殖を生かした総合的な町おこしは、引き続き進め、

- ①新規産業への支援による地域経済の活性化と地域雇用の増進
- ②新しい産品を活用しての販路開拓・拡大による稼ぐ力の発揮（輸出）
- ③新しい産品の導入による6次産業化の推進

以上の二次募集の要件を踏まえ、新産業創出戦略事業「活きがちがう！陸でギンザケの泳ぐ日本一のまち」として、再度応募する事となり、9月7日に委員会を開催し、内容説明を聞いた。

委員長 高塚 勝



ギンザケ養殖地（赤碕新港）

地方創生調査特別委員会

ここが聞きたい

一般質問 Q&A

質問議員	質問事項	掲載ページ
高塚 勝	①移動投票所について ②隣町との交流について	9
藤本 則明	①防災について ②人権・同和問題について	10
青亀 壽宏	①庁舎に設置されている防犯カメラの適正な運用について ②2012年から始まった芝関係の機械開発の成果と納入された「芝生産管理機」などの利用・運用について ③隣保館の館長及び生活相談員の身分について	11
桑本 賢治	①住民参加による予算編成について ②キョウチクトウ（夾竹桃）について	12
新藤 登子	①ネウボラの設置は検討されていますか	13
澤田 豊秋	①交通事故のない安全安心なまちづくりについて ②地域力の向上について	14
川本正一郎	①元気と潤いをもたらす事業について ②教育行政について	15
大平 高志	①人事制度について ②学力向上対策について ③移住定住施策について	16
桑本 始	①中学生の英語教育について ②地域農業の維持再生をめざす集落営農について	17
語堂 正範	①食育について ②生活困窮者の自立支援について ③コミュニティースクールについて	18
小椋 正和	①県道赤碕船上山線の路面改修について ②町内観光地のナラ枯れ対策について ③県立船上山少年自然の家活用推進について	19

※青色のつけてあるテーマについて、本紙で詳しく紹介しております。



高塚 勝 議員

問

投票困難者に
移動投票所を

答

先進地参考にする

移動投票所

問 投票所の減少、高齢化などで投票に行きたくても行けない方が増加している。

琴浦町長と議会議員選挙は一月下旬で天候に左右されやすい。移動投票所を設けて対応すべきではないか。

答

源内選挙管理委員会委員長

移動投票所は、移動期日前投票所といい、島根県浜田市が公用車で「期日前投票所」として地域に出向き、一時間から一時間半開設した。

しかし、スペースが小さいという問題があり、受付その他は仮設テントを準備したとのこと。

冬季の選挙における公用車を投票所にする方法では天候の影響を受けやすく、先進地を参考に検討する。

隣町との交流

問

大山・江府町との交流推進

町は、北栄町、倉吉市、大山町、江府町に隣接している。北栄町と倉吉市とは同じ中部地区であるため交流があるが、大山町と江府町は西部

地区のため交流が少ない。官民挙げて交流すべきでは。

答

中部地区を第一に
山下町長

中部地区において行政事務だけでなく観光や情報発信を含め、連携を推進する事が第一と考える。

隣接する地域については、民間交流や個別具体的な連携に対して検討したい。

答

学校教育では困難
小林教育長

学校教育は、西部地区との交流は難しい。社会教育分野で、何が出来るのか検討したい。

問

「日本遺産」琴浦町も追加申請を

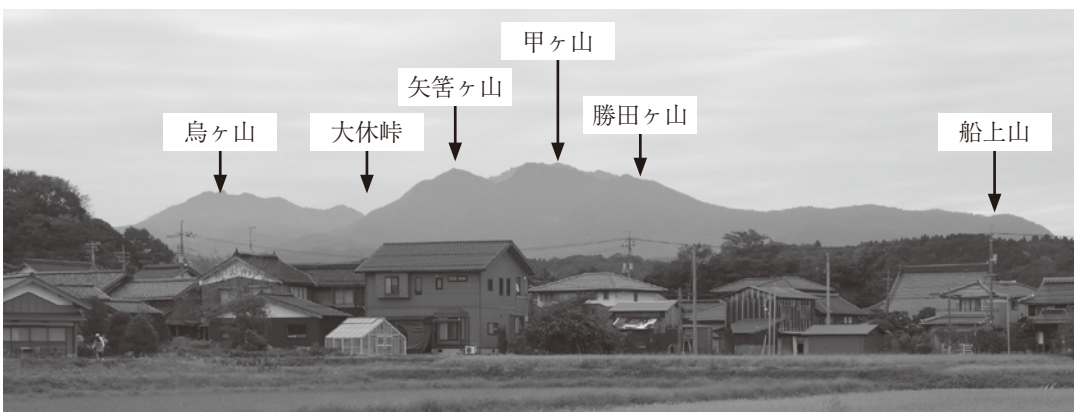
日本遺産に大山町、伯耆町、江府町、米子市が申請した「地蔵信仰はぐくんだ日本最大の大山牛馬市」が認定された。

この牛馬市に大きくかわったのは大山道。この大山道の中で一番の難所だったのが琴浦町の一向平から川床です。なぜ関係がある琴浦町は認定されなかったのか。今からでも追加申請をすべきではないか。

答

追加申請は困難
山下町長

大山道は大山寺から放射状に延び



烏ヶ山（1488 m、琴浦町で一番高い山、尾根の先は江府町） 琴浦アルプス（大休峠～船上山、尾根の先は大山町）

る道でその多くが位置し、かわりな深い県西部市町の一市三町が申請された。そのため琴浦町が追加申請する事は困難です。
今後は、「大山開山千三百年祭」などの事業展開に取り組む。



藤本 則明 議員

問 地震による津波対策は

答 様々な防災訓練を積極的に

防災対策

問 地震による津波対策はどのようなに捉えているのか。また、弱者への対応を考えているのか。

答 山下町長
安心・安全な町づくりを考えれば、防災訓練について毎年様々な訓練に積極的に係わっていく決意である。

問 マニュアルの早い確立を
温暖化がより一層進む中、防災マニュアルのより早い確立が求められるがどうか。
また、町長自らリーダーシップを取ってはどうか。

答 避難勧告など考えている
山下町長
色々な気象変化に対応できるように積極的な災害防止、避難対策（勧告）などを考えている。
私、自ら強いリーダーシップを取っていききたい。

人権・同和問題

問 水平社宣言どう考えるか
人権・同和問題の礎である水平社宣言の存在の重要性をどのように認識しているのか。

今も水平社宣言の価値は後世の人たちへの重要なメッセージと思うがどうか。

答 差別のない世界の宣言
小林教育長
本心に差別を受けている人たちが立ち上がり、人間として誇りを持ち、心から人間の尊厳、思いやりのある温かい社会、差別の無い世界を願っている宣言と認識している。
「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という叫びであり、差別のない明るい社会であることを願うことと思っている。

問 拉致をどう理解している
拉致は最悪の人権差別と考えるがどのように理解しているのか。
一日でも早い帰国を願うのはもちろんだが、拉致をどのように考えているのか。

答 学校で取り上げている
小林教育長

町内の各小・中学校での人権教育の中で拉致の問題も取り上げている。

問 拉致問題「出前授業」を
拉致問題の「出前授業」を多くする考えはないか。拉致問題は、みんなが支えていくのが本来の姿と思うが。

答 あらゆる対応考える
小林教育長
この問題の解決に向けて小・中学校を主体として、あらゆる対応を考えていきたい。





青亀 壽宏 議員

問

防犯カメラ
ルールづくり運用を

答

早急に対応する

防犯カメラの運用

問

「防犯カメラ作動中」との看板が目につく。庁舎管理規則にも防犯カメラの規程はない。ルールを作り、運用すべきではないか。

答

山下町長

本庁舎には可動式1台、固定式7台の防犯カメラを町民などに安心して役場を利用してもらうため設置している。

庁舎管理規則に定めがなく、早急に対応したい。

問

犯罪防止と証拠保全だけか

防犯カメラ設置の目的は犯罪の防止と証拠の確保だけか。

答

反問権を行使
山下町長

システムは必要で運用している。反問権を行使したい。我々の考え以外にどんなことが考えられるのか。

問

反問に反論する

できることなら防犯カメラや監視カメラのない役場が理想的と思うから、「防犯カメラ作動中」といった

看板がべたべた張られる役場はいかななものかと思ひ、質問している。反問の反論です。

答

治安維持に軸足
山下町長

どちらに軸足を置くか議論のあるところだが、私は、庁舎の治安維持や安全に軸足を置いて判断している。

問

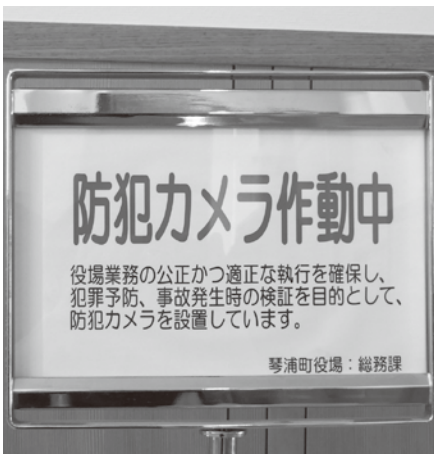
基準が出来ての運用を

基準がないのに作動させている。作動を中止し、作動中という表示を全部撤去し、運用基準が出来てから動かしてはどうか。

答

そのまま運用する
山下町長

運用の停止、表示の撤去はしない。安全の事を考えれば、システムとしてそのまま運用する。



芝 結束機

問

現地の使用に耐えるのか

地方創生の「先行型」で取り組んだ芝関連のマシンが完成し、納入されたが、性能は現場の使用に耐えるのか。貸し出しなど有効活用の手順は計画しているのか。

答

具現化は一定の成果
山下町長

貸し出しなどの利・活用は困難であり、現時点では考えていない。完成で、課題が具現化したことは一定の成果と考える。

問

車庫で眠り続けるのか

関連経費も含め463万円かけて契約上は完成し、納入され町の備品になった。これは町が使うものではない。車庫に眠っているが、そのままにするのか。

答

使ってもらえない
山下町長

不完全なもので農家に試験的に使ってくださいとは言えない。本格的なものをつくるプロセスの一段階であり、使ってもらい情報を吸い上げるといってもできない。



桑本 賢治 議員

問

予算編成に外部専門員を

答

慎重でなければ

住民参加予算

問 町民を代表する民間からの「外部専門員」を配置して、前年度事業を評価・検証し、予算編成をしてはどうか。

答 山下町長

総合計画を中心に、町民の声や部落要望等、直接的な声も聞きながら予算編成をしている。「外部専門員」の設置は慎重でなければならぬ。

問 琴浦新時代の幕開けとは

行政に対する適確な評価制度の導入と考えるがどうか。

答 次のステップを示す
山下町長

琴浦新時代の幕開けとは、新たな町のため、次のステップを示したものです。
一例を挙げると「琴浦まちづくりネットワーク」が行っている事業がこれに当たると考えている。

政策立案システム構築を

問 これからの時代は、町民との協働体制が重要となる。町の実態を直視し、住民の意見・意思に基づく行政の「政策立案システム」の構築が必要ではないか。

答 声が届く運営に取り組む
山下町長

住民と行政の協働のまちづくりを進めるため、住民の声が届く行政運営に取り組む。

問 評価員の外部登用を

行政評価の導入が必要であり、評価委員の外部登用について考えられないか。

答 適した制度を検討
山下町長

行政評価制度の導入は、「サマーレビュー（夏の事業見直し）」との位置づけ、他の自治体の実施方法を検証し、本町に適した制度とする必要があり、今後検討する。

答 現状でいく
小林教育長

教育委員、社会教育委員から意見や指導・助言を受けており、現状で行きたい。

安全対策

問 夾竹桃は大丈夫か

夾竹桃（キョウチクトウ）には強い経口毒性があり、東伯総合公園を中心に、保育園、小学校に164本植栽されているが、大丈夫か。

答 注意を喚起する
山下町長

立て札を立てるとか、町報等を活用して注意を喚起したい。

答 注意喚起が必要
小林教育長

むやみに口に入れないよう、学校あるいは家庭でも注意喚起が必要。



質問後に看板が設置された（トレセン）



新藤 登子 議員

問

「ネウボラ」設置の
検討は

答

29年に開設予定

子育て支援

問

鳥取県は、本年度から妊娠期から子育てまでの母親や家族を総合的に支援する「子育て世代包括支援センター」の全市町への配置を目指している。子育て支援を一層強化していくのが目的。2020年度までに全ての自治体にセンターの設置を目指しているが、町もネウボラ^注の設置を検討するか。

注 「ネウボラ」は

フィンランド語で「アドバイスの場所」の意味。妊娠期から就学前にかけての子育て家庭を対象とする支援制度であり、「かかりつけネウボラ保健師」を中心とする産前・産後・子育ての切れ目ない支援のための地域拠点。

答

山下町長

今年度、機構改革を行い、町民生活子育て応援室と健康対策課の健康推進係とを統合、新たに子育て健康課を設置して子育て支援体制の整備を行っている。

妊娠期から相談・支援の窓口を一本化し、産後ヘルパー事業など開始。相談のワンストップ拠点となる「子育て世代包括支援センター」を29年度に開設を予定している。

問

特性の支援サービスは

自治体の特性に合わせた支援サービスに取り組みのが特徴のようすが、町ではどのような特性の支援サービスに取り組むのか。

答

一体的な支援を検討
山下町長

妊娠から係わる母子保健部門と子ども園、保育園、小・中学校との連携を密にした一体的な支援を検討している。



問

安心子育ての環境は

妊婦が、安心して子育てできる環境づくりを具体的にどのように進めるのか。

答

ネットワークづくりを行う
永見子育て健康課長

妊娠届けの提出を機会と捉え、支援を必要とする妊産婦を早期に把握し、ネットワークづくりを行い、支援につなげたいと考えている。

問

家庭で産み育てる環境は

子育てに係わる家庭が、安心して子どもを産み・育てることができ環境づくりを進めるべきでは。

答

途中で切れないように
山下町長

問題意識をしっかりと持って、他の町に負けないようなレベルの対策を取る。一つひとつが途中で切れないようにつながっていくことが重要である。

問

ネウボラ最大の特徴は

琴浦町独自のネウボラの最大の特徴はどういうものか。

答

関係機関と連携
永見子育て健康課長

妊娠から就学前までにとどまらず、小・中学校まで関係機関と連携がスムーズに支援が充実していること。



澤田 豊秋 議員

交通安全

問 県内トップで「交通安全基本条例」が制定されたが、町長の決意と今後の取り組みをどうするのか。

また、交通安全上、「特に配慮を必要とする者」に対する取り組みは。

答 山下町長

「特に配慮を必要とする者」への取り組みは、免許証を返還された高齢者の方へバスの回数券を交付する「免許証返納支援事業」や「デマンド型タクシー運転事業」を実施している。また、反射材の普及を目的としたナイトウオークなどを実施しているが、新たな取り組みも検討したい。

問 子どもたちの安全確保は

小学校の子どもたちの交通安全確保の取り組みは。

答 安全性の向上を図っている
小林教育長

道路管理者、八橋警察署、総務課、建設課、小・中学校長及び教育委員会による連絡協議会を設置し、合同点検を継続すると共に、通学路の安全性の向上を図っている。

問 各地域で点検を

交通安全対策協議会として、交通安全協会の支部の協力を得ながら、アクティブシニア、高齢者、障がいのある方、その他「特に配慮を必要とする者」を含めて各地域で点検を行うってどうか。

答 地域に働きかける
山下町長

自分のできることは何かに気づいたり、地域でやれることはやるというようなことを働きかけていきたい。



交通安全旗の掲揚を

地域力向上

問 地域づくりの体制は

地域づくりとして、我が町も集落支援員制度や「輝く地域づくり事業」など展開しているが、公民館等と連携した体制の充実が必要では。

答 連携が重要
山下町長

人づくり、リーダーづくりを含め、行政と地域の公民館がしっかりと連携していくことが重要。

答 整備充実に努める
小林教育長

地方創生推進のためにも、公民館を含めて関係機関としっかりと連携した整備充実に努める。

問 町全体で考えては

まだ支援員が決定していないという事だが、例えば数名配置し、一つの地域だけでなく、それぞれの公民館を回りながら地域の課題を解決するなど、柔軟に町全体を考えてはどうか。

答 集落支援員は重要
山下町長

今いろいろな課題があり、地域の将来のために、人づくり、リーダーづくりは大切であり、集落支援員は重要である。



川本正一郎 議員

問

地域の元気・潤いは

答

地域を活性化させる

地域活性化

問 地域の元気や潤いについて、事業の実施にあたってどう評価しているのか。

答 山下町長

元気とは、町民が生活の各場面で生き生きとした活動ができること。また、潤いとは、元気を支える経済活動、雇用や教育の充実が上げられる。

農林水産業では、「がんばる地域プラン」で生産振興、人と農地・販売力向上の緊急課題の解決のために事業を実施し、目標数値の達成に向けた着実な実施が必要。

観光振興では、道の駅「琴の浦」の再整備、WTC事業、公衆トイレ新設事業などを実施している。

今後も、交流人口を拡大し、地域活動を活性化させ、グルメの町の推進をさらに進める。

問 オール琴浦での取組みを

琴浦物産フェアの実施にあたり、各組織の連携・連帯・協働の営みが必要である。実行委員会とかオール琴浦での取組みをしないのか伺う。

答 横断的な知恵の発揮を
山下町長

物産フェアの取り組みの主体は、行政ではないと思う。企業の活動として問題意識を持って参加することが基本。

事前の取組みについてルールづくりと組織での話し合いも必要。その他のイベントでも、縦割りの発想やその中に留まってしまいう事があり、横断的に知恵を出し合うよう心がけているが、不十分なのが実態。

地方創生など、今後も各課横断的な情報を共有し、事業を多角的に捉えた取り組みが重要と思っている。



イオンで行われた琴浦産品物産フェア

教育行政

問 元気・潤い感じているか

次世代を担う子どもたちは、元気で地域の潤いを感じているか。地域に根ざした教育活動の実施状況と今後の課題は何か。

答 力を養っていくことが大切
石前教育委員長

希望に満ち、笑顔あふれる子どもを育てること、夢を持って学んでいくことの楽しさや、地域の人々との関わりで世界が広がっていくことの素晴らしさを感じ、夢に向かってチャレンジしていく力を養っていくようにすることが大切と考える。

答 開かれた学校づくりを
小林教育長

保護者や、保育・こども園、小・中学校の連携を図り、地域に根ざした教育活動を推進して子ども達の確かな学力を身に付けさせるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進している。

今後も、地域や友達とのつながりや絆を大切にする姿勢を身につけていくことが大切だと考えている。



大平 高志 議員

問 大量退職 「再任用」の活用は

答 サービス低下防止する

人事管理

問 春には、本町の管理職も含め、多くの職員が定年で退職するという急激な変化のバランスをとるために、再任用予定の職員、特に管理職の知識や経験を活用する取り組みは効果があると考えます。

例えば、必要な人材については再任用職員を有効活用する取り組みが必要と思うがどうか。

答 山下町長

今後3年間に現在の管理職16人のうち11人が退職する。再任用職員が職務において経験を十分生かしているか検証を行いながら引き続き適切な活用を図っていきたい。

経験豊富な多くの職員が退職することによるサービス低下を招くことがないよう、ノウハウの継承や組織の見直し、職員の能力を向上していく人材育成が必要と考えている。

問 町民サービスへの影響は

若手職員の登用は必要と思うが、幹部職員は来年6名退職する。それに伴う職員の大量採用と昇進がある。急激な変化は組織の継続性や町

民サービスの面から影響があるのではないか。

10年、20年先を見据えた人員配置は必要と思う。一気に退職することはその辺りが甘かったのではないかと。

答 懸念払拭に努める

山下町長

再任用も期間が1年間だったが2年になる。その辺で懸念される様な部分を補完しながら払拭していきたい。

移住定住

問 住宅新築の補助制度を

特定の団地に住むことを条件とした補助制度^注は、建前上は移住・定住を促進するものだが、利用者は単に町内間で住所を移転している状況だ。

本来推奨すべきは、現在の居住地に家を建てる、もしくは修繕し、長く住んでもらう事ではないか。その意味でも新築資金補助制度を創設、住宅リフォーム制度の復活など、目に見える形の定住と空き家対策が必要ではないか。

答 今は考えていない

山下町長

町の施策として造成したものであり、販売促進のために奨励の施策は必要と考えている。

住宅団地以外で新築された方に適用する制度を創設することは現時点では考えていない。

問 全町に拡大しては

「若者が団地に移って跡継ぎもない、これも空き家になる。」と言う切実な意見を聞いた。

町内であればどこに建てよう、定住しようという人を同じように応援すべきではないか。

なぜ全戸に広げられないのか。

答 販売促進が重要

山下町長

琴浦町に限らず限界集落という言葉葉があったり、非常に深刻な課題であるが、財政的な側面もあり、町としても一つの住宅団地に対する販売促進を行っている。

注 「定住促進奨励金」とは

さらにタウン赤碕に同居した者に60万円、槻下団地には30万円を支給する制度。紹介者には、さらにタウンに限り10万円を支給することになっている。

問

英検検定料の補助は

答

補助は効果的



桑本 始 議員

英語教育

問

次期学習指導要領の目玉の一つが英語だが、どのように捉えているのか。

政府は17年度までに、中学卒業段階で英検3級程度以上の生徒の割合を50%にするとしているが、教育委員会はどのように対応しているのか。

総合戦略に東伯・赤碓中の英検取得率30%と、中学生の英検受験検定料の全額補助の考えはあるのか。

答

小林教育長

小5・6年生でやっている外国語活動が小3・4年生に繰り下げられ、5・6年生が教科となり評価が必要になる。中学校の英語教育は、大改定である。

生徒の英語力を高めるため、県教委が主となり、指導力の向上を図っている。町としてALTを2名雇用し中学生だけでなく、小学校や保育園、こども園にも派遣し、幼少期から英語に触れる取り組みを進めている。

子ども達が高い目標を持って資格試験に挑戦することは有意義なことだ、検定料を町が補助することは効果的だと考えている。

問

英語を地方創生に

19年度新学力テスト(英語)が導入されるが、英検取得率30%を地方創生に入れる考えはあるのか。

答

無料英語塾を検討
小林教育長

英検取得率の具体的な数字は今申し上げられないが、町で無料の英語教室を検討する。



集落営農

問

不測の事態に備え共助を

個人の病気や死亡の不測事態に備え、「共助体制」がとられているか。中山間地の直接支払制度による集

落協定と並んで「集落営農」は新たな地域農業を構築していくための重要な政策と思うが、どうか。

答

他町の取り組みを参考に
山下町長

不測の事態に対する本町の体制が確立していないのが現状で、今後、他町の取り組みを参考に検討する。

28年8月末で法人組織が4つ、任意組織が9つ結成されており、今後も集落営農の組織化を推進していきたい。

問

集落営農の予算化は

島根県は今年度、経営の多角化に向け、「小さな起業」に取り組み集落営農組織に、2/3(上限50万円)以内の補助をしている。わが町は、予算措置の考えはあるのか。

答

中身を見て判断
山下町長

提案しているのは、ローカルイノベーション、地域の変革・地域全体を変えていく大きな構想であればと思っており、予算措置は、集落営農の事業計画の中身を見てから判断したい。



議員 正範 語堂

問 「食育推進計画」
進捗は

答 委員の推薦を依頼

食育

問 28年度末をめどに「食育推進計画」を策定すると答弁したが、進捗状況はどのようになっているのか。

答 山下町長

推進計画策定に向けて、町内の食育推進担当者会を4回開催し、関係各課と情報共有、現状・課題などの協議を行った。

「計画策定委員会」を設置するため、各種団体に委員の推薦をお願いしている。

問 どこに依頼したのか

計画策定委員会の策定委員にはどのような団体をお願いしたのか。

答 各団体がメンバー
永見子育て健康課長

策定委員に県福祉保健局、健康づくり推進委員会、食生活改善協議会、保育園保護者会、PTA、校長会、JA、農業青年会議、漁協、学校給食野菜会、酪農組合それぞれの代表と行政から1名入れたメンバーとなっている。

問 スケジュールは大丈夫か

もっと早い段階で動いた方が良かったのでは。タイムスケジュールの構築はすぐにできるのか。

答 今の計画で進める
山下町長

食育は多くの共通性があると思っている。今のスケジュールで進める。

コミュニティスクール

問 コミュニティスクール

注

学校ごとに地域との連携は行われているが、一層強化するために「コミュニティスクール」を取り組むべきではないか。

答 型にとられない方法も
山下町長

地域や学校の実態に合わせて、型にとられない方法も1つの考え方だと思っている。

答 人事権に問題
小林教育長

踏み切れない理由として、教職員人事に一定の権限を持つということがあり、多くの学校が踏み切れないと県の教育長会でも出ている。

注 コミュニティスクールとは

教育行政が自らの所管の公立学校の運営や改革について手が回らないところを、地域住民に積極的にかわかってもらって運営の一部を任せる形態の学校のこと。



ひまわりの種まき

問

県道の改修要望せよ

答

県へ要望している



小椋 正和 議員

路面改修

問 県道赤碕・船上山線今在家より赤碕金屋間にかけて、町水道管敷設工事に伴った路面舗装が、時の経過により路面のへこみ、隙間が生じている。県へ改修を要請したのか。

答 山下町長

県もパトロール等をして確認しているが、緊急を要する必要はないとの見解で路面補修の計画はない。しかし、町は県当局へ路肩改良も含め舗装改修を要望している。

問 通学路にもなっている

佐崎入口までは改修が行われているが、順次改修が行われるべきではないのか。

また、この道路は通学路となっているが、歩道が未設置であり危険である。早急な対応が必要ではないか。

答 カラー舗装で対応
山下町長

路面改修はしないが、歩道を一部カラー舗装をして通学路の安全性を高めるよう今年度は取り組み計画になっている。

県道の改良計画の進展は

問 この道路全般の改良計画、県への対応はどの程度まで進展しているのか。

答 整備を要望
山下町長

具体的協議を今年度より開始した。今後は、ルートを煮詰めた上で、測量設計を行うことになり、バイパスの整備を要望していく。

自然の家

問 少年自然の家の活用は

「船上山少年自然の家」を町内の小・中学校が利用する事について、教育委員会が推進なり、指導を行っているのか。

答 校外活動として重要
石前教育委員長

町内の小・中学校が年間を通じて利用している。子どもの発達段階に合わせた校外活動として重要であり、さらに活用を図りたい。

答 体制が充実した
小林教育長

各学校とも大いに活用をしてきて

いるが、今年度指導教員の配置が強化され、体制は充実してきた。校長会、PTA連合会などに利用促進を促したい。

問 琴浦の「魅力発信」は

今後、施設に期待する事、また、多くの町外利用者に琴浦の魅力を発信する場所としての活用は考えられないか。

答 今後も期待している
石前教育委員長

郷土色のレシピの活用で琴浦の料理を親子で作る体験など豊かな心を育む場となる施設であることを今後も期待する。

答 利用の幅の拡大を期待
小林教育長

子ども会での活用、企業の研修会での活用も視野に入れながら、活用の幅が広がることを期待している。

答 一体的な交流も視野に
山下町長

自然の家の施設と連携して、利活用は旧以西小の整備と併せて活用していくローカルイノベーション構想の中で、一体的な交流も視野に入れ取り組みたい。

町民の声

高齢者クラブに入会して



田中 君彦さん

以西老壮会に平成21年6月に夫婦で入会して、当初は赤碓地区グランドゴルフ大会に参加のためと思っていました。皆さまと高齢者クラブの各スポーツ大会の交流を深めて

行き、親しい友達も多く出来てあつと言う間の7年間でしたが、ストレスが原因で救急車のお世話になったときが平成24年11月の出来事。

その後、月2回の通院と薬により現在は順調に回復し、高齢者の行事等、また、グランドゴルフ協会赤碓支部の活動で、県大会等に参加しています。

健康のために夫婦二人で朝8時より2時間程度、河原芝コースでグランドゴルフサークル活動の仲間と、ほぼ毎日

楽しくプレイを行っています。

この様な私ですが、皆さまのお役に立てればと思うようになり、以西老壮会の役員活動6年間、琴浦町高齢者クラブ理事を4年間、琴浦町高齢者クラブ副会長を約2年間務め、皆さまに不慣れのため迷惑をかけましたが、今後もしっかりお願いいたします。



我が家的、琴浦の日常(風景)



山田 繭子さん

今年の夏は近年になく暑く、農業で外仕事の多い私には大変な夏でした。そんな暑さもひと段落した先日、ようやく稲刈りができました。しかし、連日の雨で農作業が予定通り

に進まないことから、夫と私は畑仕事を優先し、稲刈りの前半は義父母にお願いです。夫婦で参加した後半、なかなか終わらそうにない稲刈りに「今日中に終わるのか？明日は雨で、その後はお祭り」と焦り、怪しくなっていく空模様です。焦りに焦りました。時刻は三女の学校が終わる頃です。迎えに行きました。

「農作業が忙しいから手伝えと児童クラブに子どもを迎えに行くなんて、いつの時代の話だ？」と思いつつも、手数

は一人でも多いほうが助かります。案の定、週末に農作業を手伝っている三女は見事にはでかけの助手をしてくれ、夕方までに稲刈りが終わりました。はでかけした田んぼ沿いに、子ども達が通う通学路があります。稲刈りのかおり。おやつのお味。通りがかりの近所の人との会話。遊びとは違う疲労感。いつまで覚えてくれるかなあと思いつつ、「いつてらっしゃい」と子ども達を見送る道です。

あとがき



暑い夏が終わったとたん、地球温暖化の影響か、台風が来襲し、東北・北海道を直撃して、大きな被害をもたらしました。

当地でも、長雨の影響を受け、ブロッコリー、白ネギ等、秋野菜に被害が発生しています。

9月議会も終了し、広報発行のはこびとなりました。少し活字が多めの広報になったかなと思います。ご一読ください。

(桑本 賢治)

議会広報常任委員会

- | | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 語堂 | 正範 |
| 副委員長 | 大平 | 高志 |
| 委員 | 青亀 | 壽宏 |
| 委員 | 高塚 | 勝 |
| 委員 | 桑本 | 賢治 |
| 委員 | 澤田 | 豊秋 |

表紙写真

諏訪神社御幸祭(10月9日)での八橋2区女みこし

(撮影/高塚 勝)